



第 6 号

平成28年 1月20日

発行元

小見川東地区まちづくり協議会

郡上市大和町との交流

8月7日の明建神社七日（なぬかび）祭りに合わせ、地区住民24名で郡上市大和町を訪れ、七日祭りや薪能を鑑賞しました。郡上市大和町は、森山城を築いた東胤頼の孫（東氏3代目）東胤行が承久の乱の戦功により郡上郡山田庄を加領され郡上東氏として11代320年あまりにわたって治めたところす。また、明建神社は、東氏の守護神である妙見菩薩を当下総から勧請し奉納したと伝えられています。



薪能の開演の挨拶で、郡上市市長から東地区の紹介があり、会長が薪能の火入れ式に参加しました。

薪能の演目「くるす桜」は、郡上東氏の9代目東常縁（つねより）をモデルにしたものです。

東常縁は、千葉一族内乱の制圧のため森山城に、13年にわたり在陣しました。

明建神社の七日祭りに舞う獅子は、東胤行が郡上郡山田庄に入部する時に、家臣や農工者と共に下飯田原宿地区の獅子（雄）も伝わったといわれています。祭り後の直会の席に下飯田原宿獅子舞OBが招待され、交流を図りました。



くらし・環境部会

保育所、小学校に

プランターを設置

「環境整備事業」の一環として、小見川東小学校及び小見川東保育所にプランターを設置いたしました。

植栽は、ボランティア森山の皆様のご協力をいただきました。今後も四季に合わせての花の植え替えを予定しています。



ボランティア森山では、社会福祉活動や地域美化活動等に協力してくれる方を募集しております。連絡先：ボランティア森山 代表高橋節子 TEL 090-2483-0244

7月26日 東地区道路愛護デーを実施



「地域美化運動」の一環として「道路愛護デー」を実施し、各区から作業計画を提出いただき協議会で各区の調整を行い、経費の一部を協議会で支援いたしました。

支援概要は、ショベル、高所作業車、ユンボ、トラック等の借上料、作業機器燃料費、作業奉仕者への飲み物、茶菓代等です。

また、市の道路河川担当職員に道路愛護活動の視察をいただき、道路環境の実情や道路整備の要望を致しました。

ポイ捨て禁止看板の設置

ごみに対する地区住民の意識の高揚を図るとともに、地区住民の生活環境を守り、美しいまちづくりを推進するため、「ポイ捨て禁止」の看板を設置しました。

地区住民の皆さんや事業者の皆さんと共にポイ捨てを防止し、美化活動をより充実し、清潔で美しい東地区にしましょう。



ひと・交流部会

9月13日

グランドゴルフ

教室・大会を開催

第1回グランドゴルフ大会を小見川東小学校グラウンドにおいて行いました。

小学生から高齢者まで幅広い年齢層の方々が参加されました。

スポーツ指導員が、グランドゴルフのルールや点数の付け方等の説明をされた後、小学生や高齢者を交えた5～6人のグループに分かれ競技が行われました。



「スポーツは苦手だが、ルールもプレーも簡単で楽しかった。」

「またやりたい、大会を数回してもらいたい。」

「競技や練習する場所がほしい。」
など、いろいろな意見がありました。

グランドゴルフは、子供から高齢者まで、気軽に楽しめ世代を超えての交流が図れるスポーツとして推進していきます。

10月18日

健康ウォーキングを実施

第2回健康ウォーキング大会は、悪天候のため翌日の実施となったため、予定者の3分の1と少人数の参加となりました。コースは、前回と同じ「東小発→森山城址→西音寺→東小着」で、ウォーキング、芋掘り、史跡見学と楽しみました。参加者からは、「交通量も少なく安全だった、沢山の芋が掘れた、森山城址の整備が進んだので奥まで見ることが出来た、大規模な城址を初めて知った」などと好評でした。



森山城址保全環境整備

昨年同様篠竹や雑木の伐採をし、整地後に川津桜、蠟梅、ブルーベリー等を植樹しました。また、地域住民の憩いの場として利用できるよう、テーブル・ベンチと仮設トイレを設置いたしました。

森山城址は、貴重な歴史財産です。また、初代城主東胤頼を始めとする東氏は、東地区の誇りでもあります。

いま農業後継者の不足で森山城址内の農地や山林もが荒地化して来ています。

興味のある方は、森山城址環境整備にご協力をお願いします。連絡先：まちづくり協議会事務局



森山城ミニ知識



とうのつねより

東常縁の墳墓と鳳凰大権現

鳳凰郭の一角に、地元で「おふう様」と信仰している風王大神の祠があります。その奥にある円墳が東常縁のお墓と伝えられています。

岡飯田村誌には「東六郎大夫胤頼十七代ノ孫東直胤ニ底リ東常縁ノ墳塚ニ壺祠ヲ鞆立シテ以テ鳳凰大権現ト称シ之ヲ祭ル」とあります。また、芳泰寺古記には東胤行（郡上東氏初代）から東常縁（9代）までの城主について、美濃で逝去の場合は、「髟眉髪齒骨」を森山に葬送されたと記されています。鳳凰郭には、数個の円墳が確認できます。

東常縁は、森山城主東胤頼を始祖とする郡上東氏の9代目です。東氏は代々和歌の家柄として有名で、なかでも常縁は連歌詞師・宗祇に「古今和歌集」の解釈や学説等の伝授（古今伝授）を行っています。また、歌論書や歌集を残すなど一流の歌人であり、学者でもあります。

東常縁は千葉一族に内乱（享徳の乱〈鎌倉公方と室町幕府の対立〉）が生じたため、幕府から内乱制圧の命を受け下総国に下向、故郷である森山城に在陣し、国分氏、大須賀氏、相馬氏をはじめ下総諸豪族を動員し、宗家と対立する千葉庄の馬加氏と千田庄の原氏を攻撃、宗家の父子を討った家臣馬加康胤は上総八幡で敗死するがその後も一進一退を繰り返します。

このころ京でも武力衝突（応仁の乱）が起こり、応仁2年（1468）9月に歌道を通じた友人である斎藤妙椿に常縁の居城である篠脇城と所領を押領されてしまいます。

これを知った常縁はこれを嘆き、詠んだ和歌（『あるがうち 断る世をしも みたりけり 人の昔の なほも悲しき』）が妙椿の耳に届くところとなり、「情けなき振舞いをなさんや、常縁歌を詠みて送り給はば 所領をもとの如くに返しなん」との妙椿の申し出に十首の歌を詠んで送り届けたところ感動した妙椿は、『言葉に 君が心は みづぐきの 行末とをきは 跡はたがはじ』と返した。こうして返歌のやりとりが続き、文明元年(1469)5月二人は京都で対面し篠脇城は返還されたとのことです。